

日本万引防止システム協会総会

稲本義範氏が第3代会長に就任

日本万引防止システム協会は、主婦会館プラザエフ（東京都千代田区）において、令和元年度通常総会を開催し、盛況に開催された。総会では、会長代

行の稲本義範氏が「当工業会は、設立より17年間、万引防止システム市場の円滑な拡大と発展を支えるための仕組みや制度づくり、万引防止システム普及のための調査研究、行政機関、各種団体

報道機関との連絡・調整等、活発な活動を行ってきた。平成23年6月には、日本万引防止システム協会に名称変更した。また、平成28年6月には「継続的なロス削減をめざしソリューション提案

強化」なる新活動宣言を発売した。さらに平成30年1月には、経済産業省認定の149番目の工業会（EAS、カメフラ分野）となった。そして、今年4月現在、正会員30社／賛助会員4社／特別会員

5団体となった。設立当時の正会員数20社より会員数も1・5倍と拡大している。

この間、我々はやるべきことを成し遂げるために粘り強く相互理解を深めてきた。新たな課題にその経験とスキームを生かしていきたいと思える。できることからやるのでなく、今やらなければいけないことをやる！という姿勢で臨んでいる。

業的、社会的役割を果たすとともに、この使命を次の時代へと紡いで参ります」と挨拶した。その後、議長が選出され総会がスタートした。今回の議案は、第1号議案・平成30年度事業報告、収支決算の件、第2号議案・年会費の変更の件、第3号議案・令和元年度組織・人事の件、第4号議案・令和元年度事業計画、収支予算の件の4つ。すべての議案が承認され、第3代会長に稲本氏が就任した。

稲本氏は、その対応のために一般社団法人電波産業界の「EAS」機器が埋め込み型心臓ペースメーカー等に及ぼす可能性についての調査研究、その後北海道大学大学院情報科学研究科でのEAS機器と医療機器との干渉試験で陣頭指揮を執ったことなどが高く評価された。野島氏は関係者に対する謝辞を述べた。

最後に意見交換会が行われた。稲本会長が挨拶するとともに、来賓を代表して経済産業省商務・情報政策局情報産業課課長補佐の藤村和弘氏、（社）全国スーパーマーケット協会副会長の増井徳太郎氏、内閣府知的財産推進事務局長（前経産省商務流通保安審議官）の住田孝之氏が挨拶した。NPO法人全国万引犯罪防止機構理事長の竹花豊氏が乾杯の音頭を取り意見交換会がスタート。新副会長の挨拶などが行われた後、副会長の三宅正光氏が中締め（正会員30社達成の三本締め）を行い閉会となった。

日本万引防止システム協会 令和元年度通常総会



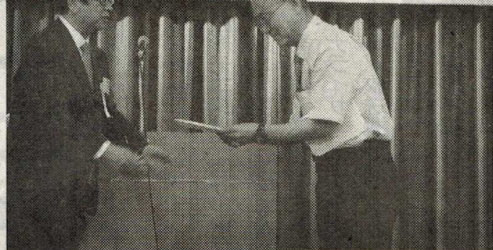
稲本会長

日本万引防止システム協会 令和元年度通常総会



総務省・渡邊修宏氏

日本万引防止システム協会 令和元年度通常総会



三宅副会長から感謝状を贈呈される野島氏

当工業会は、万引犯罪撲滅を目指す唯一のソリューション団体として、「万引犯罪をさせない店舗作り」の推進を通じて、流通業界の健全な経営、また犯罪に強い環境作りという産

業的、社会的役割を果たすとともに、この使命を次の時代へと紡いで参ります」と挨拶した。その後、議長が選出され総会がスタートした。今回の議案は、第1号議案・平成30年度事業報告、収支決算の件、第2号議案・年会費の変更の件、第3号議案・令和元年度組織・人事の件、第4号議案・令和元年度事業計画、収支予算の件の4つ。すべての議案が承認され、第3代会長に稲本氏が就任した。

稲本氏は、その対応のために一般社団法人電波産業界の「EAS」機器が埋め込み型心臓ペースメーカー等に及ぼす可能性についての調査研究、その後北海道大学大学院情報科学研究科でのEAS機器と医療機器との干渉試験で陣頭指揮を執ったことなどが高く評価された。野島氏は関係者に対する謝辞を述べた。

最後に意見交換会が行われた。稲本会長が挨拶するとともに、来賓を代表して経済産業省商務・情報政策局情報産業課課長補佐の藤村和弘氏、（社）全国スーパーマーケット協会副会長の増井徳太郎氏、内閣府知的財産推進事務局長（前経産省商務流通保安審議官）の住田孝之氏が挨拶した。NPO法人全国万引犯罪防止機構理事長の竹花豊氏が乾杯の音頭を取り意見交換会がスタート。新副会長の挨拶などが行われた後、副会長の三宅正光氏が中締め（正会員30社達成の三本締め）を行い閉会となった。